

■高校野球のケーススタディー（第16回）■



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

高校野球における公式試合や練習試合の中で生じたプレイの中で、“こんなプレイ、ルールではどうなるの？”といった疑問について、ルールの側面から解説します。

○ ベースコーチが走者の保護具を回収するときに気をつけることは・・・

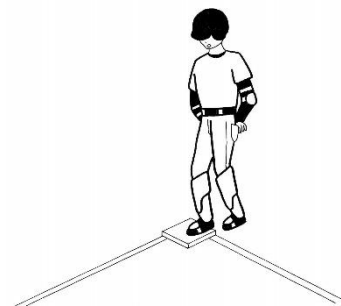
地区大会でのことです。打者が2塁打を打ち、打者走者が2塁に到達した時点で、2塁審判員は打者走者の保護具を外すため、タイムをかけました。

2塁審判員は、打者走者と保護具を受け取りに来たベースコーチに対し、何か指導をしているようです。何を指導したのでしょうか。

タイムがかけられたとき、打者走者が保護具として装着していたレッグガード（足）とエルボーガード（腕）のほか、手袋と手首保護ガード（リストガード）をベースコーチに手渡していました。

2塁審判員は、両者に保護具であるレッグガードとエルボーガードのみを回収し、手袋と手首保護ガードは、打者走者自身のポケットに収めるよう注意を促していました。

「高校野球審判の手引き」を見てみると、「大会運営上の留意事項【周知徹底事項】」の中で次のように記載されています。



試合をテンポ良く進めるために、保護具（エルボーガードおよびレッグガードなど）を装着した打者が走者となったとき、当該ベースコーチは保護具のみを速やかに回収する。（手袋、手首保護ガードは走者自身で管理する。）

したがって、2塁審判員は、打者走者とベースコーチに対して、手袋と手首保護ガードは、ベースコーチに渡すことなく速やかにポケットに入れ、走者自身で管理するように指導したのです。

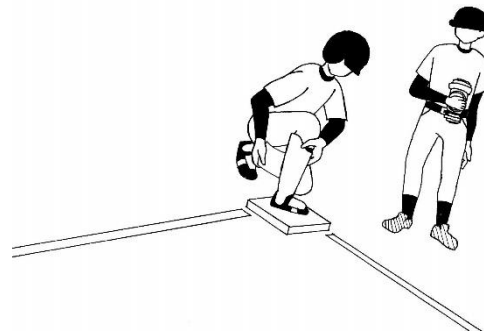
このケースのように2塁打によって打者走者が2塁に進んだときは、保護具を外すために必ずタイムをかけますので、保護具の受け渡しの様子が周囲にもよく分かります。

また、ヒットなどで1塁に進んだときは、タイムをかけることなく、すぐ側にいる1塁ベースコーチに保護具を手渡すこととなりますが、その際、手袋や手首保護ガードまで一緒に渡しているケースをよく見ることがあります。

上記の周知徹底事項で定められているように、保護具を外す塁がどこであっても、手袋や手首保護ガードは、ベースコーチが回収することなく、走者自身が管理するようにしましょう。

走者がヒットや四死球などで1塁に進んだとき、ベースコーチが素早く走者に近づき、レッグガードを外す作業を手伝っている場面を見ることがあります。

ベースコーチがサポートすることで、走者は監督のサインを確認するなどゲームに集中することができ、試合をテンポよく進めることにもつながります。ぜひ、参考にしてほしいと思います。



なお、保護具や手袋などの取り扱いについては、次の点にも注意しましょう。

- ① 2塁走者の保護具を回収する場合は、自チームのベンチに近いベースコーチが受け取りに行くようにしましょう。(自チームのベンチが1塁側であれば、1塁ベースコーチ、3塁側であれば、3塁ベースコーチとなります。)
- ② 走者となった場合、手袋を手に握るだけの行為をすることなく、手から外す場合は、手袋のすべてをポケットの中に納めるようにしましょう。(大会運営上の留意事項【周知徹底事項】〔大会前に〕参照)

今回紹介した事例は、公式試合に限らず、練習試合においても度々散見されることから、審判員は選手に対してその都度、指導しているところです。

また、地区大会や県大会の抽選会において各校に配付している「規則・マナーに関する注意事項」にも次のように記載されており、重要な事項であることが分かります。

エルボーガード及びレッグガードは速やかに取りに行くこと。(保護具のみ、手袋・バットイングサポーターはポケットに入れる)

各校の指導者の方は、「規則・マナーに関する注意事項」に記載している事項については、十分に内容を理解した上で、必ず選手にも伝達するようにしてください。

表題デザイン・イラスト協力：兵庫県立姫路工業高等学校デザイン科
表題デザイン：飛田 紀香さん(73回生) 坂田 朋葉さん(73回生)
イラスト：谷口真奈佳さん(3年) 中川 早紀さん(3年)